

令和3年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業計画書

【基本方針】

令和3年度は、これまでの20年間に取り組んだ成果を生かし、当館の基本理念や魅力を改めて広く伝えていけるよう、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、積極的な運営に取り組んでまいります。

令和3年2月末時点での入館者数は、前年同期に比べ、39.7%減の311,236人と、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により厳しい状況が続いております。引き続き、入館者の体温測定やマスク着用等の呼びかけ、換気の徹底などの対策を行うとともに、展示の一層の充実を図り、効果的な広報活動を行いながら、海・山・川の循環のあり方や自然環境の保全、自然の持続的な利用について考える場を提供してまいります。

さらに、社会教育施設として学校や他の文化施設等との連携を図り、「持続可能性」及び「命の教育」を基本とした「教育プログラム」を強化し、子どもたちが「自然への扉」を開く体験学習の場として利用できるように努めてまいります。

水生生物保全センターでは、採集及び飼育が困難とされる生物の飼育実験及び繁殖研究を行い、新展示開発につなげるとともに、県内外の希少生物の域内保全に取り組んでまいります。

いなわしろカワセミ水族館では、福島県の水環境保全のシンボルである猪苗代湖や裏磐梯湖沼群を中心とした展示、環境保全・調査研究及び環境教育普及活動に関する事業を行い、情報発信を進めてまいります。

これらの取り組みを通じて、「行動する水族館」Inspiring Aquariumとして、内外から高く評価されることにより、当面60万人を超える入館者数を目指して事業を展開してまいります。

- 1 アクアマリンふくしまの戦略「AMF Strategy」に基づき、震災以降低迷し、新型コロナウイルス感染症の影響により更に減少している入館者数の回復を図るために、積極的な情報発信と来館者サービスの向上につとめ、完成度の高い環境展示を実現し、活力ある水族館運営を目指します。

AMF Strategy :

- ①小名浜港ウォーターフロントの活力を取り戻す
- ②プロローグの生物進化のストーリー強化
- ③Happy Oceans戦略の拡大
- ④域内保全活動の強化
- ⑤ボランティアとの連携強化
- ⑥七つの海の水族館ネットワークの拡大
- ⑦農林水産業振興の狼煙を上げる
- ⑧ミュージアムショップの魅力増大

- 2 新型コロナウイルス感染症終息後のシーラカンス調査活動再開に備え、現地協力機関と連携して新たなシーラカンス生息地の情報を収集し、シーラカンスを中心と

した保全活動に取り組んでいきます。

- 3 友好園館や世界水族館会議を通して培われた国際的なネットワークと協力し、新型コロナウイルス感染症流行下での情報共有に努めます。

近年問題となっているマイクロプラスチックなどの海洋環境の問題を来館者に訴えかけていきます。

- 4 東京電力福島第一原子力発電所事故により放出された放射性物質の影響を調べ、来館者への情報提供を行うことによって、正しい放射線の知識の普及に努めます。
- 5 みなとオアシス計画の一環としてナツメヤシ露地栽培実験および地元産樹木を育成し海岸林をつくる須賀プロジェクトを推進します。
- 6 ミュージアムショップ及びレストラン事業は展示の延長として位置づけ、海洋保全に資する教育普及のための情報発信を行いつつ、展示に関連した商品やメニューを開発し、来館者のニーズをとらえ、収益増を図ってまいります。
- 7 わくわく里山縄文の里を中心に、縄文時代にあった自然との共生をテーマに、水族館の枠にとらわれない新たな展示を開発していきます。
- 8 学校団体への学習プログラム提供や一般向け募集型プログラム開催のみならず、生涯学習の場として飼育職員やボランティアによる展示解説を実施する等、すべての来館者に対する教育普及活動を充実させていきます。また、オンラインによる講座や家庭での学習教材の提供など、感染症拡大により活動が制限される中でも教育の機会を提供していきます。
- 9 カワセミ水族館では、新規展示生物を導入し、鳥類・哺乳類展示の拡充、キッズスペースの内容充実及び利用促進を行います。また、魅力ある企画展を実施し、ミュージアムショップでは、来館者ニーズに合ったオリジナル商品の開発を進めていきます。

【 事 業 内 容 】

I 公益目的事業

1 飼育展示事業

(1) 生物収集事業

展示及び研究目的のための生物の採集、購入及び輸送を以下のとおり施行する。

- | | |
|-------------------|----|
| ① 淡水生物収集 | 通年 |
| ② 沿岸生物収集 | 通年 |
| ③ 深海性生物収集 | 通年 |
| ④ 北方系生物収集 | 通年 |
| ⑤ サンゴ礁、マングローブ生物収集 | 通年 |
| ⑥ 植物 | 通年 |
| ⑦ 蛇の目ビーチ生物収集 | 通年 |
| ⑧ アクアマリンえっぐ展示生物収集 | 通年 |
| ⑨ 保全センター砂漠系生物収集 | 通年 |
| ⑩ わくわく里山・縄文の里生物収集 | 通年 |

※ 令和3年2月末時点での展示規模は、以下のとおり。

水槽数（小型水槽は除く）

・本館	117槽
・BIOBIOかっぱの里	1槽
・蛇の目ビーチ	1槽
・子ども体験館「アクアマリンえっぐ」	28槽
・水生生物保全センター（金魚館）	8槽
・クウェート・ふくしま友好記念日本庭園	2槽
・わくわく里山・縄文の里	13槽
合計	170槽

（2）南方系生物蓄養事業

南方系魚類（黒潮水槽及びサンゴ礁水槽展示生物）を収集し、現地の海上生け簀にて蓄養し輸送する。

- 奄美大島：キハダ、カツオ、メバチ、ギンカガミ、サンゴ礁生物他
- 佐渡島：バショウカジキ、その他

（3）水生生物保全センター運営事業

水生生物保全センター（本館及び串本分館）では、採集及び飼育が困難とされる生物の飼育実験及び繁殖研究を実施し、新規の展示開発に取り組む。

- ① 深海性生物の収集調査を行い、新規展示生物の開発に取り組む（ギンザメ、ハダカイワシ、ラブカ等他）
- ② 県内希少生物の繁殖：シナイモツゴ、ゼニタナゴ、イトヨ、メダカ、タガメ他
- ③ 熱帯植物の展示：マングローブ植物他
- ④ クラゲ類、魚類等その他生物の飼育繁殖研究
- ⑤ 天然記念物に指定されている沼の内弁財天賢沼の大ウナギをシンボルとした「弁財天うなぎプロジェクト」により、阿武隈域内保全活動として域内希少淡水魚調査、ウナギ生態調査に取り組む。
- ⑥ ラブカ研究プロジェクトにおいてラブカ胎仔の育成実験を行う。

（4）飼育生物管理事業

本館収容生物（植物を含む）の展示・飼育管理、BIOBIOかっぱの里、蛇の目ビーチ、クウェート・ふくしま友好記念日本庭園、わくわく里山・縄文の里の環境整備、水生生物保全センター、アクアマリンえっぐの飼育管理を行う。

2 移動水族館事業

移動水族館専用車（アクアラバン）により、広域な圏内の各地域・各施設のイベント等に出展し、普段当館に足を運ぶことができない人にも海の生物に親しむ機会を提供し、自然の事象への興味、関心を高めてもらう。集客戦略の一つとして位置づけるとともに、開催地における地域振興に貢献する。

3 研究交流事業

（1）学会・研究会等参加事業

学会及び各種研究会へ参加し、先進技術の情報収集を行い、当館の展示並びに教育普及活動に反映させる。

(2) 友好締結園館交流事業

新型コロナウイルス感染症流行下において、友好締結園館（東京都葛西臨海水族園、モントレー湾水族館、香港オーシャンパーク、パラオ国際サンゴ礁センター、新潟市水族館マリニピア日本海、クウェート科学技術研究所、ボルチモア水族館、北京水族館、上海水族館、中国科学院水生生物研究所、ロッテワールド水族館、那須どうぶつ王国）との情報交換を行い、各園館および各国の状況を把握する。感染終息後、生物及び技術交換等の交流事業のみならず集客の手段としても展示交流を再開する。

また、世界水族館会議での国際ネットワークを活用した情報交換を行い、近年問題となっている海洋環境の保全についての活動を充実させる。

(3) 放射性物質調査研究事業

東京電力福島原子力発電所事故により放出された放射性物質に関する調査を、金沢大学、木戸川漁業協同組合他と共同で実施する。風評被害払拭のための重要な事業であることを認識し、環境水族館にふさわしく海山川の汚染の推移を把握し、情報発信する。

4 海洋文化推進事業

(1) シーラカンス調査事業

シーラカンスの学術研究を長期的なテーマとして堅持しつつ、新型コロナウイルス感染症流行終息後にインドネシア諸島周辺、アフリカにおいてシーラカンス調査研究が再開できるよう準備を整える。現地研究機関や大学と相互協力し、シーラカンス研究グループを組織し、本研究が、サンゴ礁の域内保全活動の一環であるとの認識を共有する。

インドネシア、アフリカ調査で得られた結果を、館内の展示を通して来館者に知らせる。また、シーラカンス研究活動において共同研究している大学等の研究機関と共に、学術的な成果を館内及び館外で報告する。

以下は感染症流行状況を判断し実施する。

インドネシアシーラカンスの生態について新たな知見を得られるよう、継続的なシーラカンス調査を実施する。

インドネシアにおいて「アクアマリンふくしま海洋保全センター」を運用し、サンゴ礁生物をはじめ、シーラカンス等の生態系保全を行い、調査研究の効率化と推進を図る。

5 企画営業事業

(1) 企画管理事業

新型コロナウイルス感染拡大防止に万全を期すとともに、魅力あるイベント開催等により来館者サービスの向上や誘客促進に努める。

① 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底

入館時の体温測定、マスク着用や手洗い・アルコール消毒、距離の確保等の呼びかけ、換気や清掃の徹底等に引き続き取り組み、感染拡大防止と来館者の安全・安心の確保に努める。

② サービスの充実

高齢者から幼い子ども、身体障がい者まで全ての来館者が快適に過ごせるような設備の充実とサービスの向上に努める。高い接客技術を有するスタッフを館内各所に配置して、迅速かつ丁寧に来館者の要望やクレームに対応し、満足度を向上させるためのサービスの充実を図る。

さらに、接客や来館者アンケート等により得た来館者の要望や評価を把握し、サービス向上に反映させる。

③ 館内案内の充実

館内案内リーフレットを配置し、来場者の観覧を支援するとともに、館内プログラムの情報を提供することで、来場者の利便性向上を図る。リーフレットは海外の来場者も利用できるよう、多言語のものを作成して配置する。

④ 年間パスポートの販売促進

リピーター対策として1年間何度も利用できる年間パスポートを販売する。購入者には特典を設け、満足度向上を図り、購入者数を増加させる。

⑤ 通年開館

誰もが年間を通して曜日を問わず来館できるよう年中無休で開館する。

⑥ 催事の開催と開館延長

年間を通して季節ごとに多彩なイベントを開催し、誘客に結びつける。また、新型コロナウイルス感染症が収束傾向にある場合には、ゴールデンウィーク、お盆、クリスマス等の期間について開館時間を延長してより長く館内で楽しんでいただくとともに、各種催事を実施することによって誘客促進や来館者サービスの充実を図る。

(2) 広報宣伝事業

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、来館者の減により低下した認知を少しでも回復させるため、パブリシティを活用した広報活動と各種媒体による広告宣伝を積極的に展開する。

① パブリシティを活用した広報活動

広告料を必要としない媒体の活用や広報活動を積極的に行う。

- ア マスコミ各社に対する情報提供、テレビ・ラジオ等への取材対応・出演
- イ 県内外の新聞、旅行誌、タウン誌等への情報提供
- ウ 観光施設、公共施設へのチラシの配布、配置
- エ 市内小学校児童へのチラシ配布
- オ 無料Webサイトへの情報提供

② 広報媒体による広告宣伝

各種広告媒体を精査し、県内外で費用対効果の高い広告宣伝を行う。

- ア 県内及び隣接県でのテレビ・ラジオCMの放送
- イ 県内及び隣接県での新聞、情報誌等への広告掲載
- ウ Web広告や旅行雑誌、フリーペーパーへの広告掲載等

③ 移動水族館専用車（アクアラバン）を活用した広報宣伝

商業施設や観光地、各種イベントで、積極的に移動水族館を開催し、広報活動を行う。

④ 各種観光イベント等への参加

主に首都圏を中心とした県外での観光イベントに参加し、移動水族館やプロモーション、チラシ配布による広報活動を行う。

⑤ ホームページ（スマートフォンサイト含む）の充実による広報宣伝

ホームページとSNSを活用し、タイムリーな情報提供を行う。

(3) 観光誘致事業

新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、旅行エージェント等と積極的に連携し誘客活動を展開する。

① 旅行エージェント営業

旅行エージェント等に提案型の営業を行う。また、被災地学習を目的とした団体旅行

をターゲットに震災ガイドスを含む当館への見学の受け入れを行う。

- ② 近隣観光施設等との連携による誘客活動
近隣宿泊施設と連携した誘客活動を積極的に行う。また、近隣観光施設や県内観光地と連携して回遊性のある企画に参画する。
- ③ 磐越道沿線施設連携事業の推進
いわきと新潟をつなぐ磐越自動車道沿線の文化施設との連携により共同割引券、広域からの誘客活動を積極的に推進する。
- ④ 企業の団体旅行誘致や福利厚生事業への参画
企業等への営業により、団体旅行の誘致や前売券の利用を促す。
- ⑤ 学校団体の誘致
県外学校団体の利用を促進するため、教育委員会や学校を積極的に訪問し、誘致を行う。特に県が積極的に誘致を行っている九州方面からの教育旅行営業を強化する。

(4) 地域交流事業

地域に根ざした施設づくりを進めるとともに、様々な機会を通して地域との連携を深め、人・モノ・情報の交流を活発にして地域の活性化と魅力的な地域づくりに努める。

- ① 小名浜まちづくり市民会議への参画
いわき花火大会への協賛など小名浜まちづくり市民会議の事業に積極的にかかわり、小名浜地区の地域活性化に貢献していく。
- ② 地元漁業の復興支援
地元漁業の再開に貢献するため、漁業をPRするイベントの開催や、地元漁協及び水産系高校の活動支援を行う。
- ③ 移動水族館専用車（アクアラバン）を活用した地域交流の推進
主に県内の文化施設を中心として誘客に貢献することを目的に、移動水族館を開催する。
- ④ いやしの水族館（水槽レンタル）事業
病院や観光施設、官公庁をはじめ様々な施設に有料でクラゲ等の水槽を設置する事業を進め、地域の交流場所に癒しの展示を提供する。

6 学習交流事業

(1) 解説活動事業

来館者に展示テーマや展示生物への理解を深めていただくために、ボランティアの協力も得て館内で給餌解説やバックヤードツアーなどの解説活動を実施する。また、「わくわく里山・縄文の里」をはじめ、「B I O B I O かつぱの里」や「蛇の目ビーチ」を活用し、「海、山、川」のつながりの重要性を来館者に伝えるため、多様な自然体験活動を提供することにより、福島県の自然環境の保全に寄与できる人材の育成を図る。このために関係団体やNPO等とも協働してワークショップを定期的で開催する。なお新型コロナウイルス感染症拡大の際は、感染症予防に留意しながら実施するものとする。

(2) 企画展開催事業

集客力と来館者サービス向上のため、季節に応じた多彩なイベントや企画展示を以下のとおり開催する。

- ① 小名浜国際環境芸術祭
ア 期間：9～11月
イ 概要：芸術の秋にちなみ大漁旗デザイン展、キッズアート展、海の男たちの盆栽展、シーボーンアート展を開催する。

② 季節イベント

ゴールデンウィーク、夏休み、ハロウィン、クリスマス、年末年始、春休み等に合わせイベントを開催する。

(3) 展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行う。

- ① 館全体の情報の更新や展示の拡充、展示機器の故障への対応を行う。
- ② 弁財天うなぎプロジェクトコーナーにおいては、阿武隈域内保全活動として県内の希少淡水生物調査、ウナギ生態調査を継続して行い、来館者へ情報を提供する。また、ふくしまレッドリストの生物調査に協力し、県内の希少生物・外来生物データの共有を図る。
- ③ 各種パネルや種名ラベルの更新を行い、来館者へ常に最新の情報を提供する。
- ④ 東京電力福島原子力発電所事故により放出された放射性物質に関する内容の展示を行い、風評被害の払拭に努める。
- ⑤ えっぐの森、縄文の里を体験活動の場として展示を充実させ利活用の促進を図る。
- ⑥ 伝馬船工房での伝馬船製作、炭焼き窯での炭づくりにより、山・川・海のつながりで成り立った古き良き時代の伝統を紹介し、継承していく展示を行なう。

(4) 学校教育関連事業

学校及び社会教育施設との連携を図りながら、海の生物、海洋文化・科学に関する学習支援事業を推進する。また、学校教育に基づく活動の利用による減免制度の特性を維持する。なお新型コロナウイルス感染症拡大の折、学校教育施設の活動支援にあたっては、感染リスクの高い活動は避け、実施可能な活動も感染症予防対策を十分に講じて実施していく。

- ① 教員セミナーを実施（8月中に3回開催）する。
- ② ゲストティーチャーを実施する。
- ③ 教材等の貸し出しを実施する。
- ④ アクアマリンふくしまの利用案内をするガイダンスや館内の展示を活用した館内学習を実施する。
- ⑤ 職場体験や学芸員実習など、館内での実習を行う。
- ⑥ バスを活用し、県内の小規模校の児童、生徒を送迎して館内で学習をさせる館内学習支援事業を実施する（年度内10回程度）。
- ⑦ 移動水族館専用車（アクアラバン）を運行し、学校や社会教育施設を対象とした移動水族館を開催する。
- ⑧ キッズアート展を開催し、環境芸術祭に合わせテーマを決めて集めた子どもたちの作品を館内において展示する。
- ⑨ 教員専用のホームページを作成し、館内学習の内容や学校対象の催しなどの情報提供を行うなどITを活用した学校の利用促進を図る。

(5) 情報提供事業

インターネットや機関誌を利用して、館内活動状況、水生生物及び海などに関する情報を提供する。

- ① インターネットによる情報発信
ホームページのほか、SNSにより随時情報を発信する。
- ② 機関誌（AMF NEWS）の発行
四半期ごと年4回発行する。ホームページにデジタルブックを掲載し、利便性向上を

図る。

7 スクール開催事業

来館者に対し、様々な体験を通じた教育普及活動を行ない、地球環境や生き物についての理解を深めていく。なお感染症拡大の中では密になる活動は避け、実施可能な活動についても十分な感染症予防対策を講じて実施するものとする。

(1) スクール開催

事前募集をした参加者を対象に命の教育をテーマとした多様なプログラムを提供する。子どものみ、大人のみ、家族等対象の異なったプログラムを、月2回、年24回程度開催する。状況に応じてオンラインの活用や教材提供等の手法も用いて実施する。

例) 宿泊スクール、ナイトツアー、工作体験、陶芸教室、飼育体験、漁業体験他
オンライン講座

(2) 釣り、調理体験

アクアマリンえっぐの釣り場でアジやギンザケを釣らせ、調理体験スペースや蛇の目食堂を使用し、釣る、調理する、食べるを子どもたちに体験させ、命を頂戴する意味を五感をとおして考える機会を提供する。

(3) うおのぞき体験活動

子どもたちに水産物の利用や水産加工の伝統を継承するため、アクアマリンえっぐにて子ども漁業博物館うおのぞきの体験活動として以下のプログラムを実施する。また、新たな体験活動を実施する。

・炭火焼体験、かつお節削り体験、エサやり体験、缶詰づくり体験等

(4) えっぐワークショップ

アクアマリンえっぐ内のワークショップコーナーにおいて、当館のボランティアの指導による有料の工作を開催する。

(5) 他団体との連携

全国のNPOやボランティアと協働してワークショップや移動水族館等を行い、いわき市内をはじめ県内外の被災地の子どもを元気づけるために多様な支援活動を実施する。

8 ボランティア等活動事業

(1) ボランティア活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進する。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的に行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供する。なお、これらの活動は感染症予防に十分留意しながら行なうこととする。

- ① バックヤードツアーの実施
- ② 本館ボランティア案内所での情報提供
- ③ アクアマリンえっぐにおける工作や釣りの指導
- ④ うおのぞきにおける炭火焼等各種体験の指導
- ⑤ アクアマリンえっぐのボランティアーズステーションを中心とした展示解説や体験活動の支援

- ⑥ 各所におけるスポットガイドの実施
- ⑦ 企画支援（イベント準備等の支援）
- ⑧ 研修の実施

接遇研修、Q & A 研修、バックヤード研修、他館視察研修等ボランティア各個人の経験に合わせた研修を実施する

（２）チューターの配置

各分野で専門的な知識や経験を持った方を教育指導員（チューター）として登録し、展示の充実や来館者の観覧支援に当たる。

9 施設管理事業

- ① 開館 21 年目を迎え、施設の経年劣化による事故・障害の防止を図るため、「ふくしま海洋科学館の管理に関する基本協定書」に基づき、県有財産の維持管理・修繕を適正に行う。

また、昇降機設備、電動開閉窓、非常用発電装置等の更新計画について検討実施する。蛍光管の生産終了に伴う館内照明の LED 化、濾過送水棟自動弁更新、海獣用 I T V カメラ更新等の更新計画について、県と連携しながら検討実施する。

- ② 省エネルギー対策としては、エネルギーの使用状況を詳細に把握することにより、効率的な熱利用を行う。同時に廃熱の回収や熱ロスと外気温からの影響の低減を目標に、既存設備の改修を計画する。また、電力自由化を踏まえ、他の電力会社との契約について継続して調査検討を行う。

（１）主要維持管理施設

○いわき市小名浜字辰巳町地内

① ふくしま海洋科学館

本館等敷地面積	56,189.52 [㎡]
本館延床面積	12,935.11 [㎡]
水生生物保全センター延床面積	925.09 [㎡]
子ども体験館「アクアマリンえっぐ」延床面積	1,266.70 [㎡]
屋外便所延床面積	106.18 [㎡]
温室	52.54 [㎡]
わくわく里山・縄文の里関連施設延床面積	1,509.56 [㎡]
屋外屋根通路棟	83.11 [㎡]
伝馬船工房	39.74 [㎡]
炭焼き小屋「たろうがま」	34.80 [㎡]

② 駐車場関係

施設外駐車场面積	12,093.81 [㎡]
----------	------------------------

○いわき市小名浜下神白字松下地内

① 海水取水・送水施設

ろ過送水棟敷地面積	665.54 [㎡]
ろ過送水棟延床面積	180.04 [㎡]
取水ポンプ棟敷地面積	238.29 [㎡]
取水ポンプ棟延床面積	84.43 [㎡]
取水管（管径 350mm）	182.20m
揚水管（管径 300/350mm）	146.00m
送水管（管径 250mm）	2,885.64m

○和歌山県串本町

① 水生生物保全センター分館

延床面積

186.00㎡

(2) 来館者用駐車場の確保

来館者に対応できる駐車場を確保する。

① 専用駐車場 282台 (うち身障者用5台、バス15台)

② 公共駐車場 1,429台 (うち身障者用17台)

* 駐車場合計 1,711台

10 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業

「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」は、福島県内及び猪苗代湖の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開する。

また、福島県内の淡水魚、は虫類、両生類、鳥類等の保全と調査研究を行い、情報発信に努める。

(1) 施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター 736.00㎡

猪苗代町緑の村釣堀、鑑賞池 10,000.00㎡

猪苗代町淡水魚館 605.10㎡

(2) 展示事業

- ① 猪苗代湖及び周辺自然環境情報のパネル展示
- ② 淡水生物の分布についての水槽展示及びパネル展示
- ③ 外来水生生物の飼育展示及びパネル展示
- ④ 希少淡水生物繁殖保全水槽
- ⑤ ユーラシアカワウソの飼育展示
- ⑥ 水辺に生息する鳥類の飼育展示
- ⑦ 福島県内に生息する哺乳類の展示
- ⑧ 企画展示

※展示水槽数

淡水生物水槽 140槽

カワウソ水槽 1槽

キングヨ水槽 16槽

合計 157槽

(3) 体験プログラム

- ① 釣り体験の実施
- ② 参加体験型展示と映像を放映
- ③ 館内オリエンテーリングの実施
- ④ 館内ワークショップの実施
- ⑤ 木育キッズコーナーの充実

(4) 情報発信

各種展示を通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水生物の繁殖・保全を来館者に対して情報発信する。

(5) ボランティア活動

- ① 館内解説補助
- ② 釣り堀運営支援
- ③ 来館者の参加体験支援

II 収益事業

ふくしま海洋科学館における収益拡充のため、ミュージアムショップ及びレストランの機能を充実させ、サービス向上に努めるとともに、健全経営に資する事業として来館者単価の向上を図る。

1 ミュージアムショップの運営

売上げ状況の分析による販売商品の定期的な見直しを行うほか、試作・検証を十分に行いながらオリジナル商品の開発に積極的に取り組むと同時に、店舗ごとに商品構成の差別化を図り、来館者の購買意欲を高め、売り上げの向上につなげる。

また、常設展の新規展示や企画展と連動した商品を販売すると共に、店内のディスプレイや季節演出等によりミュージアムショップの魅力を高め、売り上げの増加を図る。

2 レストランの運営

レストラン「アクアクロス」は、新規メニューの開発や料金設定の見直しを行い、来館者の利用促進と収益の向上を図る。

また、館内2階潮目の大水槽前では、話題性の高い寿司処「潮目の海 HAPPY OCEANS」を営業して収益増を図りながら、漁業資源の利用についての問題提起を行う。

3 イブニングイベント事業

「雑魚を美味しく食べる会」（略称「雑魚の会」）

雑魚のブランド化及び地域の施設、団体、メディア、企業などの交流の場を設けることを趣旨とした会を開催する。